

お墓の法事？ お墓のお祝い？



●Answer
ぎゅうようじ ほんがんじ
 沖繩市・球陽寺(コザ本願寺)
ぜんしゅうしよく きえ りゅうしやう
 前住職 帰依 龍照

Q

葬儀社の社長をして
います。とある方から
「墓の法事は何年ごとです
か？ 忘れるから年表を作っ
てください」と依頼されてい
ます。墓の法事といわず、墓
のお祝いという人もいます。
なぜ言い方が違うのですよ
うか？ また、正しくは何年
ごとに行うものでしょうか？
(北中城村・Sさん・30代)

A

Sさん、葬儀社を営ま
れ、多くの故人さまご
遺族さまの心の支えに
なられていますこと、心よりご
尊敬を申し上げます。
沖繩では、お墓を新築され
からの儀式・法要は、ご質問に
あるとおり、地域・家庭によっ
て名称が異なります。沖繩の
しきたりに詳しい皆さまに
は、日頃、何気なく使っている
名称かもしれません。あら
ためて先人のジンブ(知恵)
を拝借しつつ、その語源を尋
ねさせていたいただきたいと思
います。

お墓のご法事

「墓又ニンチスコー」

沖繩では、お墓を新築され
たとき、納骨法要(納骨式)と
建碑式(建碑法要)をお勤め
申し上げます。納骨法要は、
故人さまがお亡くなりにな
り、ご遺骨をお墓へ納めること
をいいますので、訃報(不祝
儀)に関連する法要であるこ
とから、お葬式ナンカ(七日)・
ご法事に準ずるご供養のお勤
めであるといわれています。
このとき、納骨法要をお勤

めする故人さまやウヤファア
フジ(先祖さま)が三十三回
忌(沖繩では最後の「法事」を
経過されていたり、故人さま
がタチクチ(立口(初代))で
あったり、お一人のとき、また、
四十九日・一周忌・三回忌など、
ミーサー(新仏)の喪中の期間
でお墓を新築され、同時に納
骨法要をお勤めされるとき
は、故人さまの今後のご法事
とお墓の新築後の儀式・法要
の年数が並行・追従すること
になります。

ここから、故人さまのご法
事と同じく、お墓にもご法事
があるという考え方につな
がったといわれています。この
考え方のことを沖繩では、墓
又ニンチスコー(お墓の年忌
法要(「法事」といい、ご法事
と同様の年数でお墓の新築を
偲ぶしきたりがあるといわれ
ています。これが、ご質問にあ
る「お墓の法事」の語源にあ
ります。

お墓の落成祝い

「墓又シースビューエー」

お墓の新築では、納骨法要
だけでなく、建碑式(けんぴし
き(落成祝い))もお勤め申し
上げます。沖繩では、よく「ウ
墓又新築トウ住宅又新築、ドゥ
チランテーシチ(お墓の新築と
住宅の新築、どちらも大切)
などのお言葉を耳にします。
そのような意味も含め、お墓
の新築のことを墓又シース
ビューエー(お墓の落成祝い)
といい、こちらも同様に、ご法
事の年数でお墓の完成をお祝
いするしきたりがあるといわ

れています。これが、ご質問に
ある「お墓のお祝い」の語源に
あたります。

お墓の法事・お墓のお祝い
をお勤め申し上げる年数につ
いては、故人さまの法要と同
様、一周忌、三・七・十三・二十五
・三十三回忌となりますが、こ
こで重要なことは、読んで字の
如く、3・7・13・25・33年で、行
うものではないという点です。

これは、一周忌の「周忌」は満
数字を表すという意味があ
るため、そのまま1年と計算
して差し支えありませんが、
三・七・十三・二十五・三十三回
忌の「回忌」は、数え数字を表
すという意味があるため、実
際には、1年少ない2・6・12・
24・32年でお勤めされるよう
、ご留意いただければと思いま
す。

お墓の年表の表題

お墓の新築の年表を作成
される時、お墓の新築と同
時に納骨法要をお勤めされ
る場合の表題は、墓又ニンチ
スコーを意味する「墓の
年忌年表」と記載されて
みてはいかがでしょうか。

納骨法要をお勤めされ
る故人さまやウヤファアフ
ジが三十三回忌を経過さ
れたり、その手前であつて
も、ご相談者さまからの
「お墓の法事」についての
依頼ですので、広義で差し
支えないかと思ひます。

一方、お墓の新築につい
て、「お墓のお祝い」に比重
を置かれるときは、表題
は「墓の落成年表」と記載

されてみてはいかがでしょうか？
この記載方法は、生前墓
という、納骨法要のない、生前
にお墓を新築されるケースで
も該当するかと思ひます。ま
た、お墓の新築は、前述のと
おり、納骨法要と建碑式があ
りますので、両方の儀式・法要を
含む意味で、「墓の年忌年表
(墓の落成年表)』または「墓
の落成年表(墓の年忌年表)』
と双方を敬い、() 付けされ
ることも一案かと思ひます。

このように、お墓の新築は、
故人さまのご供養からとらえ
るときと、完成のお祝いから
とらえるときとで名称が異な
ります。

お墓の新築に関する年表
は、あまり見かけませんので、
ご依頼者の方にとりまして
も貴重な資料になるうかと存じ
ます。Sさん、ぜひとも、立派
に作成されてください。

